

令和5年度事業報告について



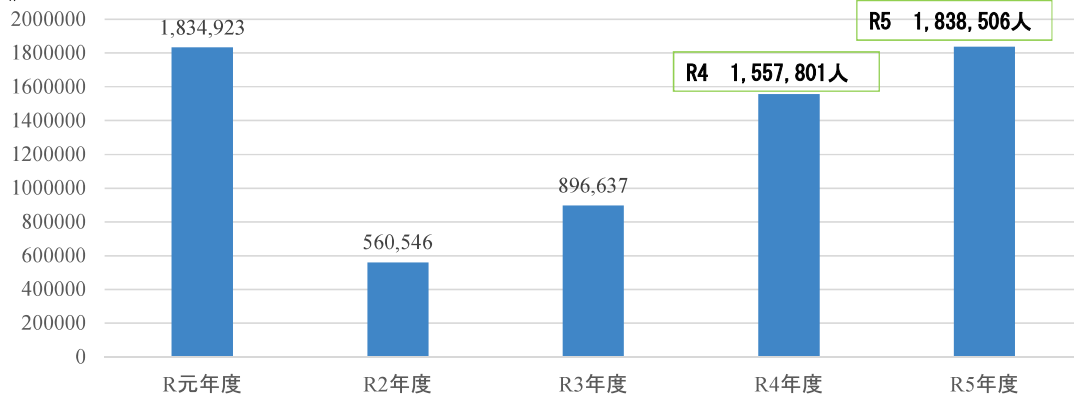
○事業方針

- ・スポーク(九州と外とを結ぶ)の充実・強化 ー路線の充実及び利用促進ー
- ・ハブ(大分空港)の充実・強化 ー空港ターミナルの整備及び機能強化ー

○利用者数の推移

前年度に比べて約28万人増え、約184万人(前年度比18.0%増)となった。
 コロナ禍前の平成30年度の200万人と比べ、約91%まで回復してきている。

(単位:人)



[ソウル線] TW通年運航 8月から運休 KE季節運航 運航せず [プサン線] [ムアン線] TW通年運航 8月から運休 [台北線] CI チャーター運航2往復	[ソウル線] TW通年運航 運休 KE季節運航 運航せず [プサン線] [ムアン線] TW通年運航 運休 [国内線] R3.2 ビーチ・ピ I-ジョー就航	[ソウル線] TW通年運航 運休 KE季節運航 運航せず [プサン線] [ムアン線] TW通年運航 運休	[ソウル線] TW通年運航 運休 KE季節運航 運航せず [プサン線] [ムアン線] TW通年運航 運休	[ソウル線] JJA通年運航 R5.6~ KE季節運航 R6.1~3 [プサン線] [ムアン線] TW通年運航運休 [台北線] CI チャーター運航2往復
---	---	--	--	--

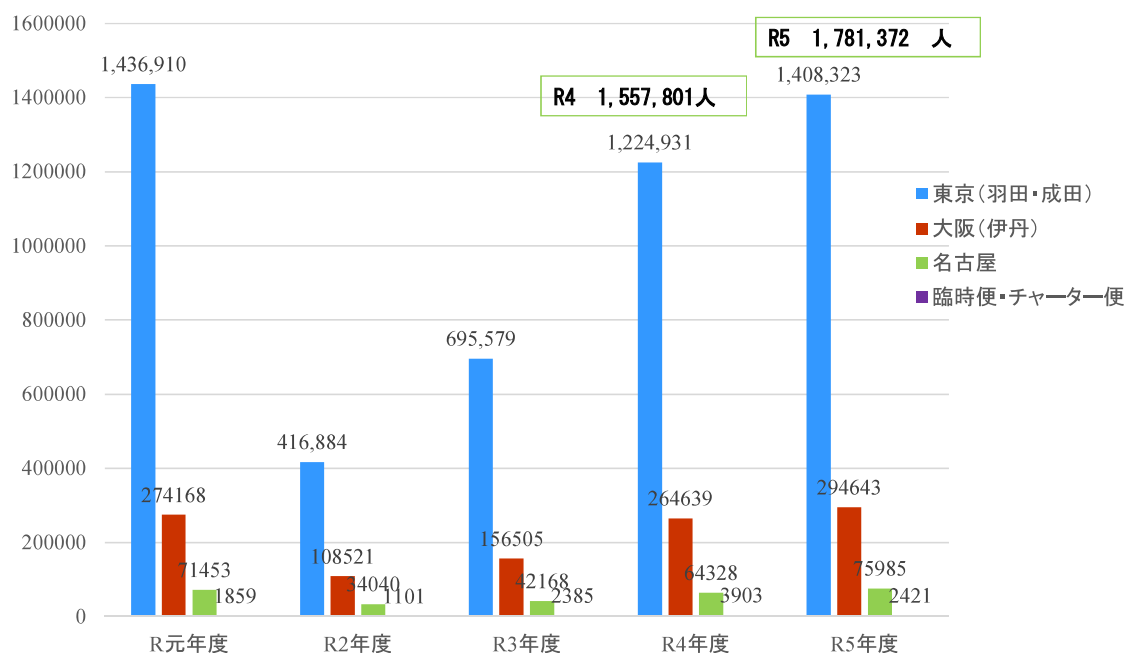
1 航空ネットワークの拡充



【国内線】

国内線の利用者数は、対前年度比で14.3%増の178万人となった。
 東京路線の戻りには課題が残るが、観光利用の割合が高い大阪路線についてはコロナ禍前を上回る利用者数となった。

(単位:人)



1 航空ネットワークの拡充



◆国内線の拡充

新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながら、コロナ収束後を見据え平常時の運航状況に戻せるよう利用促進を図った。

利用促進【大分県の魅力・情報の発信と誘客策の強化】

①航空会社と連携した情報発信・誘客

【日本航空(JAL)】

➤羽田空港産直館にて「おおいたフェア」を開催(R6.1.19~1.22)

大分県産品の販売や観光、宇宙港のPR等を行い、大分県への誘客促進を図った。

<イベントの様子>



<SPACEPORT OITA情報発信>



1 航空ネットワークの拡充



【全日本空輸(ANA)】

➤朝日放送と連携し、Tverにて大分県誘客CMを配信することで、大分県への誘客促進を図った(R6.3.1~3.31配信)



1 航空ネットワークの拡充

【ソラシドエア(SNA)】

➤機内誌3月号で別府大学の学生とコラボし、ソラシドエアが包括連携協定を締結している県内5市の観光やグルメの情報を発信した。



1 航空ネットワークの拡充

【IBEXエアラインズ(IBX)】

➤名古屋市等でのPR広告及びweb広告の掲出に加え、広告内で大分-名古屋線航空券が当たるアンケートを行い、大分県への誘客促進を図った(R5.12.18～R6.3.17)

＜名古屋市内でのPR＞



＜WEB広告＞



1 航空ネットワークの拡充



【ジェットスター・ジャパン(JJP)】

- 機内誌冬号において、大分県の観光やグルメの情報を発信した。
 - 大分市内を運行する路線バスにジェットスター・ジャパンのラッピングを施し、大分ー成田線の路線のPRを行った。
 - 三者連携協定(大分県、大分大学、JJP)に基づく講座を開講した。
- R6.2.19の報告会では、LCCの利用者層である若者をターゲットにした観光モデルコースのプレゼンテーションを実施した。

<機内誌>



<ラッピングバスの運行>



<プレゼンテーションの様子>



1 航空ネットワークの拡充



【ピーチ・アビエーション(APJ)】

- Yahoo! やGoogle、SNSなどにweb広告を掲出し、大分県への誘客促進を図った(R5.10.20~R6.1.31)

<Instagram等での広告配信>



<Google広告>



<Yahoo! での広告配信>



1 航空ネットワークの拡充



②航空需要の創出

【ジェットスター就航10周年記念イベント】

- R5.4.15に大分駅にて、ジェットスター大分路線就航10周年イベントを開催
- 大分＝成田路線の認知度、興味関心の向上を行った。

【大分駅での空港利用促進イベント】

- R6.3.17に大分駅にて、大分空港の利用促進を目指し航空会社ブースを出展
- 物販や抽選会を通し、航空や大分空港の魅力を発信した。

<ジェットスター10周年イベント>



<空港利用促進イベント>

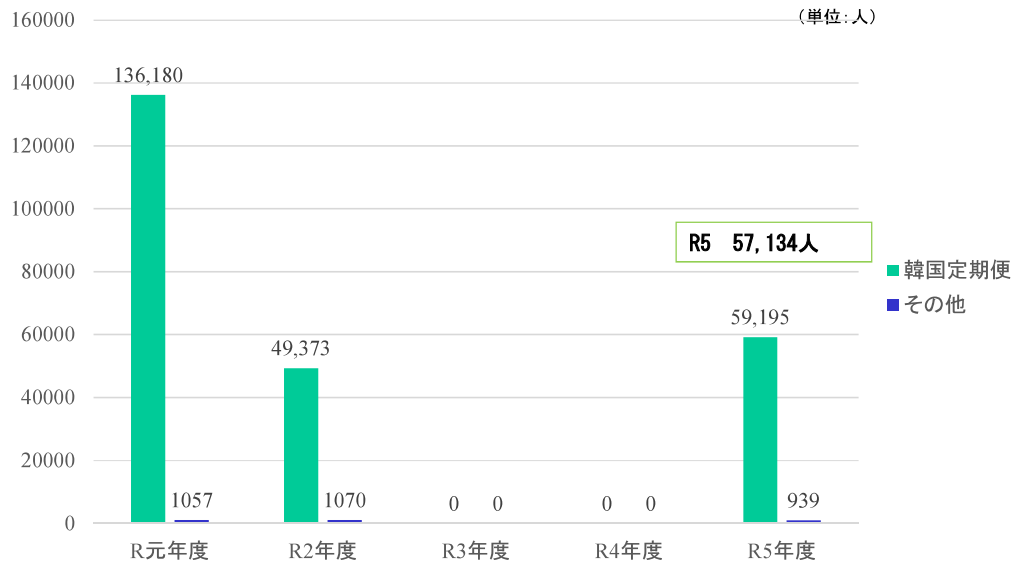


1 航空ネットワークの拡充



[国際線]

国際線は、約4年ぶりに定期便が再開し、季節運航や台北へのチャーター実績もあわせ、約5万7千人の利用となった。



1 航空ネットワークの拡充



◆国際線の拡充

就航再開及び新規就航に向けた調整、定期便の安定的な運航に向け、運航費用軽減支援や利用促進施策を実施した。

(1) 路線の拡充

① 定期便

【韓国】

➢ チェジュ航空

R5.6.22～就航、R6.1.12～週5便運航

➢ 大韓航空

R6.1.20～R6.3.30運航



<大韓航空運航>



<チェジュ航空新規就航>

1 航空ネットワークの拡充



②チャーター便

【台 北】

➢台北(台湾)の桃園空港と結ぶ
チャーター便をR6.2.22～25に運航した。



(2)利用促進

ソウル線の安定的な運航・路線定着を図るため、
航空会社と連携して情報発信と利用促進施策を実施した。

【インバウンド対策】



＜インバウンド広報掲載内容＞

＜チャーター便到着の様子、チラシ＞

1 航空ネットワークの拡充



【アウトバウンド対策】

＜大分駅デジタルサイネージの様子＞



＜イベントの様子＞



＜バナー＞



(3)人材確保

国際線運航に必要な航空・空港人材確保に向けた見学会を開催(R6.3.19)

＜全体説明の様子＞



＜グループ別説明の様子＞



2 アジアと宇宙をつなぐ宇宙港の実現



○R5年度の動き（主なもの）

- ・R5.09 Sierra Space社（以下、SS社）、三菱UFJ銀行、兼松、東京海上日動火災において、戦略的パートナーシップ契約を締結するとともに、SS社に対して出資
- ・R5.11 東京日本橋で開催される国内最大級の宇宙ビジネス展示会 NIHONBASHI SPACE WEEK 2023に出展

○R6年度の動き

- ・R6.07 SS社、兼松、日本航空、県との4者による大分空港を宇宙往還機 Dream Chaserのアジア拠点として活用するための検討を進めるパートナーシップに、新たに三菱UFJ銀行、東京海上日動火災が参入することを発表

○今後の動き（予定）

- ・SSはR7年にも米国でのDream Chaserの打ち上げ及び着陸を予定

○今後の取組方針

- ・SS社、兼松、JAL等と連携しつつ、大分空港の水平型宇宙港としての活用に向けた取組を推進。

Sierra Spaceについて

- ・米国航空宇宙企業Sierra Nevada Co.から、宇宙部門が分社化した企業。

- ・宇宙往還機Dream Chaserを開発しており、NASAから同機によるISS（国際宇宙ステーション）への物資補給ミッションを受託。

- ・DC初号機が宇宙機としての宇宙環境試験を完遂、ケネディ宇宙センターにて打上げ前の最終的な統合準備中

- ・ジェフ・ベソズ氏率いる宇宙開発企業 Blue Origin等とともに次世代民間宇宙ステーションの開発を推進するほか、SS社独自の地球低軌道居住モジュール LIFE Habitatを開発中。



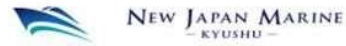
Credit: Sierra Space
宇宙往還機ドリームチェイサー（Sierra Space社）

県内企業の宇宙関連の取組事例

位置情報の活用

Bioism

- ・自社の「廃棄物収集車両運行管理システム」に、衛星測位補正情報システムを活用
- ・廃棄物分野のシステムに関する7つの特許を取得



- ・みちびきの測位情報を活用したプレジャーボートの
- ・自動着岸システム「ピタット自動離着岸」を開発

衛星画像データの活用



- ・衛星データを活用した農作物の生育評価システム「GrowthWatcher」を提供
- ・大分県竹田市、茨城県那珂市、熊本県にて、「GrowthWatcher」を用いた実証事業を実施



- ・令和4～5年度経済産業省補助事業に採択
- ・米の収穫適期予測・成分分析の実証に取り組む
- ・SAR衛星観測データを用いた土砂災害検出の実現可能性検証を実施

3 空港アクセスの充実



ホバークラフトによる大分空港海上アクセスの整備

【導入方針】

- ◆運航開始: 令和6年秋を予定 ◆利用者数: 年間30～40万人台を想定
- ◆運航計画 ・船舶: 旅客定員80名程度でバリアフリー対応のホバークラフト
※ 本県が船舶等を保有し、民間事業者が運航を行う、「上下分離方式」を採用
・ルート: 海上運航距離 約30km、最短所要時間 約30分
・隻数: 3隻

【運航事業者、旅客ターミナル設計者、造船事業者の決定等＜R2～R5＞】

- R2.11月 運航事業者を第一交通産業株式会社に決定し、「運航事業に関する基本協定」を締結
- R3.2月 旅客ターミナル設計者を藤本社建築設計事務所・松井設計設計業務委託共同企業体に決定
- R3.11月 造船事業者をグリフォン・ホバークラフト・リミテッド（英国）に決定
- R4.10月 ホバークラフトの船体デザインを決定
- R5.2月 ホバークラフトの船名を決定（1番船「Baiken」、2番船「Banri」、3番船「Tanso」）
- R5.5月 ホバークラフトターミナル名称及びシンボルマークを決定
（ターミナル名称: ホバーターミナルおおいた、通称: HOV. OTA（ホボッタ））
- R6.2月 すべての船舶の調達、工事が完了



【旅客ターミナル完成写真】

西大分側



大分空港側



【ホバークラフト船体デザイン】



3 空港アクセスの充実



大分空港を起点としたMaaSの推進について

第6回検討部会の開催（令和5年12月20日開催）

- 実証実験で抽出された課題を解消するため、MaaS基盤の強化を中心に令和5年度の事業実施状況を共有し、九州MaaSとの連携に向け、九州MaaSや大分県MaaS実行委員会の設立について議論した。

MaaS基盤の強化

- 大分空港利用者の利便性向上のため、持続的なMaaSの構築に向けて、大分県内外のMaaS実行組織や事業者等と連携し、MaaSを運用した。
- 各種システムやホーバークラフト等との連携は、システム連携費用が高額であることやアプリ上の制約などにより、令和5年度での実施を見送った。

九州MaaSとの連携

- 九州各県のMaaSを九州一体となって推進する「九州MaaS」構築のため、令和6年4月1日に「九州MaaS協議会」が設立され、令和6年8月1日からのサービス開始に向けて準備を進めているところ。
- 大分県においても、乗合バス事業者や大分第一ホーバードライブなどの事業者が主体となり「大分県MaaS実行委員会」を令和6年4月1日に設立。
九州MaaS協議会と連携して、県内における住民や観光客等の移動円滑化や移動需要の創出に取り組む。



大分県MaaS実行委員会の設立により、大分空港を起点としたMaaS検討部会は発展的に解散

4 空港機能の拡充及び魅力向上 (R5年度_大分航空ターミナル幹事業)



◆ 空港利用者の満足度向上

- ・空港スタッフ一丸となり「おもてなしの心」で取り組む「大分空港サービス推進協議会にて」年2回(夏・冬)の清掃活動や、各種研修会を実施。
- ・各事業所におけるCS推進活動の中で、最も「ナイスカード」の投票が多かった事業所へ「CS推進ベストナイス賞」の表彰を実施。
- ・国内線搭乗待合室内の床面カーペットが経年劣化により、汚れが落ちにくくなったため、ソフトタイル床へ更新工事を実施。

◆ 地域とともに進める空港づくり

- ・車椅子マラソンやアルゲリッチ音楽祭等と連携し、館内各所へポスター、歓迎バナー等を掲出のうえ、イベントを開催。
- ・売店「旅人」では多様な事業者の生産物を販売する「チャレンジ販売」を実施、レストラン「スカイライン」ではご当地グルメの「別府冷麺」や、県産椎茸「うまみだけ」を使用したメニューを展開し、空港における本県の魅力・観光情報の発信を行った。
- ・県内在住の芸術家「サバコ」さんの作品、宇宙人「ポルチコポピリン」を館内に6基設置し、宇宙港の機運醸成を図った。
- ・1F到着ロビー足湯にて初の取り組みとなる、長湯温泉の「天然炭酸泉」を使用した観光PRイベントを行った。



夏季繁忙期前にサービス推進協議会メンバーにて清掃活動実施



清潔感のあるソフトタイル床へリニューアルした搭乗待合室内



手荷物引渡場内に設置した「ポルチコポチリン」



「長湯温泉」より炭酸泉の源泉を運搬してイベントを開催

4 空港機能の拡充及び魅力向上 (R5年度_大分航空ターミナル幹事業)



◆ カーボンニュートラルの推進

- ・2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、大分空港事務所の主管のもと2023年2月に発足した大分空港脱炭素化推進協議会に参画。空港関係事業者全体で基本計画の策定をはじめ各種の取組を実施。
- ・電力不足や電気料金の高騰に対応して節電の取組を強化。ペーパーレス化を目的として社内システムを見直し。
- ・SDGsの一環として取り組む館内のペットボトルキャップ回収ボックスより、約30,000個をエコキャップ推進協議会へ寄贈し、ゴミ30Kg分の削減及び、焼却時のCO2削減に努めた。

◆ 空港運営におけるリスクマネジメント力の強化

- ・航空機事故対処総合訓練(大阪航空局大分空港事務所主催)を前に、救難隊の一員としてトリアージ訓練に参加。
- ・各航空会社や県内医療機関、警察、自衛隊、地域の消防拠点などが参加する「航空機事故対処総合訓練」に参加。
- ・訓練の結果やガイドラインの変更にあわせて規程なども随時更新し、緊急時の連絡体制を再確認するなど、引き続き安全・安心な空港づくりに取り組む。
- ・トイレや授乳室、有料待合室、喫煙所などの個室となる場所に、耳の不自由なお客様やご高齢の方が、火災報知器の発報を認識できるよう、光が点滅する光警報装置(フラッシュライト)を設置。
- ・漏電や漏水等の異常をいち早く察知することができる中央監視装置の更新、災害時等に館内全館へアナウンスする非常放送設備の更新、国内・国際線ビルにおける保安検査機器の一部更新等を行った。



<ペットボトルキャップ約30,000個>



<トリアージ訓練>



<航空機事故対処総合訓練>

5 目指すべき将来像の実現に向けた戦略的な空港運営



◆コンセッション導入に向けた取組

空港コンセッションについて、最近の動向や空港とその周辺地域の活性化に向けた取組の先行事例等を紹介し、関係者の理解を深めるため、県主催による説明会をR6.2.8に開催

○説明会講演内容

- ・空港活性化による地域振興及び観光振興
東京女子大学 矢ヶ崎 紀子 教授
- ・大分空港におけるコンセッション導入による地方創生の可能性について
慶應義塾大学商学部 加藤一誠 教授

○参加者数

105名（県内外の金融機関、経済団体、
航空会社、旅行会社等）

